

令和7年度 第1学期始業式 講話

令和7年度が幕を開け、本日、第1学期の始業式を迎えました。それぞれが進級し、これを機に新たな目標を据えて日々取り組んでいこうと決意を新たにしていることと察します。

令和7年度は、本校にとって「創立60周年」という記念すべき一年となります。60年という年数から、人の一生を俯瞰してみると、「還暦」という言葉を想起するのではないのでしょうか。還暦は、「生まれ直し」であるとも言われます。本校のよき伝統や習慣を引き継ぎながら、皆さんの叡智を結集し、「つながり」と「確かさ」を掛け合わせて新しい歴史を刻んでいくことを期待します。

ところで、我が国の歴史を振り返ると、100年前の1925年に、いわゆる普通選挙法が制定されました。この当時の人々の努力により、大正デモクラシーの風潮の広がりの中で、主体的に社会に関わる機会と権限が与えられるようになったことを承知していることと存じます。さらに、歴史を遡ると、800年前の1225年に、鎌倉幕府により政治の方針や法律を定め裁判等も担当する幕府の最高意思決定機関として評定衆が置かれました。このことにより、幕府の政治について、その代表者が独断で裁定するのではなく、有力な御家人たちと合議（話し合い）をしながら政治を進めるための仕組みが構築されたことに気付くのではないのでしょうか。

昨年度末に実施した「高校生の意識及び生活に関する調査」において、「あなたは周囲や相手のことを思いやって生活できているか。」という項目に対し、全校生徒のうち3割以上が「当てはまる」、5割以上が「おおむね当てはまる」と回答しました。しかし、「あなたは学校全体や学級、部活動等をより良くするために自ら主体的に考え、行動できているか。」という項目に対しては、「おおむね当てはまる」と回答した生徒の割合は、前述の項目と同様に5割を超えていたが、「当てはまる」と回答した生徒の割合は前述の項目から大幅に減少しています。今後、主体性を高めていくためには、自らが置かれている状況を客観視し、自身の判断により執るべき行動を選択してそのことに積極的に取り組むことに加え、周囲に気を配り議論等を通じて関係者の根底にある多様な価値を顕在化させ、異なる意見や立場を調整し、全員が納得できる決定や解決策を導き出すプロセスである合意形成を積み重ね、全体を俯瞰した上で集団として向上を図っていくことが不可欠となるのではないかと考えます。

さらに、こうした活動を通して、自己の在り方や社会のあるべき姿に目を向け、新たな目標や自身の到達点を見据えるとともに、主権者としての意識を高めていくことにも繋がるものと考えます。

本年度も、社会が抱える様々な課題の発見に努め、このことに向き合いながら日々の授業等を通して解決に向け必要な知識や技能を身に付け、周囲と協働しながら楽しく学びを深め、学校生活が一層充実することを願っています。